

## (八) 毛画筆にちなんだ年中行事

筆の町は画筆の町であり、また刷毛の町でもあるが、この筆や画筆にちなんだ年中行事は多い。町の中には農業專業の人もあるが、筆の町としての意識は強い。それだけに筆や書に対する関心は他に例を見ない程に濃厚である。したがって、たとえ能筆家でないとしても書を見ることを好み、子弟の書教育に熱心である筆に関する年中行事としては、商工会主催の全国書画展覧会と筆祭りがあり、学校行事として全国書道教育研究会、七夕競書（画）会等がある。

### 1. 全国書画展覧会

全国書画展は先に述べたように昭和七年に開催されたのがはじめである。戦前の応募作品は遠く朝鮮、満洲、台湾、ハワイ等、広汎な地域にわたっていたが、戦後当然その範囲は縮少された。第二次大戦の苛烈な時や戦後一、二年の混乱期は全国的書道教育の低調さを反映していたが、今日また昔日の隆盛さを思わせるようになつてきた。

現在、（昭和三十二年）書画展は回を重ねること二十五であるが、この度の出品数は書一万百五十八、画二千六百六十五であつた。その実態は年により消長があり、参加区域の変遷があることは今述べたとおりであるが、昭和二十八年度を例にとつて参加範囲や表彰数を示すと次のようである。

この全国書画展は案内状はもちろん応募作品その他賞状、賞品はすべて郵送によつており、書画展の事務の大部分はその方面で占められておるが、全国各地から寄せられたこれらの作品は、熊野第一小学校を会場

出品		数	
府県名	学校	一点数	学校
青森	一	二二	一
秋田	一	一五	一
新潟	一	一五	一
茨城	一	二四	一
群馬	一	二四	一
埼玉	三	一三〇	二
千葉	三	一三〇	二
東京	一	一六	一
静岡	一	四七	一
岐阜	一	二〇	一
愛知	一	一〇	一
三重	一	二八	一
京都	一	一〇	一
大阪	一	一〇	一
奈良	一	一〇	一
和歌山	一	一〇	一
徳島	一	一〇	一
香川	一	一〇	一
高松	一	一〇	一
愛媛	一	一〇	一
高知	一	一〇	一
鹿児島	一	一〇	一
沖縄	一	一〇	一
計	二一六七	九	二〇〇

表彰		数	
府県名	学校	一点数	学校
大阪	一	一三	一
兵庫	一	一三	一
岡山	一	一三	一
広島	一	一三	一
山口	一	一三	一
愛媛	一	一三	一
福岡	一	一三	一
熊本	一	一三	一
佐賀	一	一三	一
長崎	一	一三	一
宮崎	一	一三	一
鹿児島	一	一三	一
沖縄	一	一三	一
計	九	二二三	二八一

として、絢爛たる美の殿堂を展開し、応募者は勿論遠く離れた人々にも是非見てもらいたい光景である。なお昭和三十二年度の案内状発送数は県内千百三通、県外千四百五十通で、展覧会参観者の内、記録簿に記入された名は町外約四百名に上るといふ盛況を示している。

### 2. 七夕競書、図画大会

これは商工会の主催ではないが、全国書画展と同様な趣旨で行われ、県下の児童、生徒の実技を筆の都に於て競わんとするものである。主催は熊野町教育委員会と熊野中学校で書道は昭和二十六年七月その第一回を開催した。この催しは、戦後の書道教育の沈滞に一つの推進体としての場を設けようとしたことに始まり

広島大学の井上桂園氏らの肝入りがあつた。当時としては広島は勿論各地で行われてきた競書会等も中断した形で、一般に中学生等は筆の使い方も思いにまかせない状態であつた。そして現在まで七つの年をとつたわけである。

図画大会はおかれて二十九年十月にその第一回を開催した。筆の町は同時に画筆の町であるという趣旨と図画教育進展の周囲の要望とに応えんとしたのである。そしてこれが七夕競書会と一体化して現在に及んでいる。牽牛、織女の伝説は遠く奈良時代の万葉集に詠まれているが、この由緒深い七夕の行事としての競書(画)会は、古い夢を偲ぶ上に於ても、またかりに子供には七夕の伝説は忘れられたとしても、これから長く続けられていくことだろう。たゞし主催者としては、毎年この頃やつてくる天候不順と学期試験による参加者の苦心をかこつている。参加者その他の概要は次のようである。

### 第七回七夕競書・第四回競画会 (昭三二・七・七)

項目	書		画	
	人数	特賞	人数	特賞
小学	一	六	七	四
少年	二	八	一	一
中	三	一	二	一
計	二一六七	九	二二三	二八一

### 3. 筆 祭

日本三筆の一人である嵯峨天皇を偲びあわせて本町製筆の元祖と称せられる井上治平、音丸常太の両筆司の功労を謝し更に毛筆製造に対する精進を祈念する意味に於て、昭和十年九月二十四日、熊野商工会設立十周年を卜してその第一回が開催せられた。その後毎年秋の彼岸の日盛大に举行せられ、本年(昭和三十三年)は熊野筆発祥の弘化三年から満百十年

になるので、特に意義深く行われた。筆祭といえど馴れない人には異様に聞えるかも知れないが、当日の行事は祭典に始まり、毛筆製造技術者の表彰、ついで余興としての筆踊りに終るのである。

筆踊りの歌詞は左に掲げるが、すでにレコードにも吹き込まれており、遠い地において親しまれているのに時に驚くことがある。

熊野の盆踊りは白昼、男子だけが神社の境内で踊る由緒深いものであるが、この筆踊りは着飾った少女達が部落毎に可憐な技を展開し、平和な一日を神社境内に送るのである。

事実筆祭は筆の都の美しい行



筆祭の踊り

毎年秋に行われる筆祭の風景、今年(32年)は熊野筆祭の百十年祭で特に盛大であつたが、あいにくの雨で、踊る人も地下の毛筆元祖とともに秋空をうらめしく思つたことだろう。

事の一つである。ちなみにこの筆踊りは昭和三十年八月、東京の日比谷公会堂に於て満都に紹介された。



作詞 野口雨情  
作曲 藤井清水  
編曲 片岡志行

筆まつり (上)

(一) 筆の都よ サツコリヤサ

上は大杉ハ、ヤントナ 八幡宮

(二) 筆は七十 サツコリヤサ

三度もかわる (ハ、エツサカセ)

咲いた紫陽花たゞ七度 ソリヤ

咲いた紫陽花ハ、ヤントナ たゞ七度

(四) 熊野筆屋の サツコリヤサ

熊野の唄は (ハ、エツサカセ)

山の木萱もきゝなびく ソリヤ

山の木萱もハ、ヤントナ きゝなびく

筆まつり (下)

(一) 毛もみ楽でも サツコリヤサ

恰好つけア出来ぬ (ハ、エツサカセ)

筆司ア見たよな楽じやない ソリヤ

4. 全国書道教育研究会

これについては教育の項で概述したのでここでは省略したい。

(一) 熊野の町は (ハ、エツサカセ)  
姉も妹も筆造る ソリヤ  
姉も妹もハ、ヤントナ 筆つくる  
(二) 九十九段の サツコリヤサ  
石段のぼりや (ハ、エツサカセ)  
上は大杉八幡宮 ソリヤ

(一) 筆司見たよなハ、ヤントナ 楽じやない  
人に隠して サツコリヤサ  
書きたよりさえ (ハ、エツサカセ)

(二) 筆の命毛にやかくされぬ ソリヤ  
筆の命毛にやハ、ヤントナ かくされぬ  
忘れなざるな サツコリヤサ  
(四) 堀の城山の (ハ、エツサカセ)

下は熊野の筆どころ ソリヤ  
下は熊野のハ、ヤントナ 筆所  
迷つちやならない サツコリヤサ  
筆どころ追分の松を (ハ、エツサカセ)  
筆の熊野の目じるしに ソリヤ  
筆の熊野のハ、ヤントナ 目じるしに